

スピリチュアルな国際協力

グループ3

(浅野千晶、出町卓也、香川奈央、金山幸弘、茅野龍馬、古賀佳奈子、野田尚志、山本祐美子、吉野沙織、アドバイザー：植松真生)

私たちは、この「国連大学グローバル・セミナー 第3回島根・山口セッション」の中で、大変勉強になる、様々な講演を聞かせていただきました。特に、感染症や食糧問題、女性問題などといった講演が印象に残っていますが、それらの講演の中で、“グローバル化”という言葉がよく用いられていたように思います。

今回の発表に当たり、私たちのグループはその“グローバル化”という言葉で議論のきっかけとし、国際協力や国際関係について考えることにしました。また、これらについての考えを深めていった結果、多くの問題を抱えるこの世界の中で、私たちが行っていきたい理想の形が見えてきたように思います。

まず、グローバル(Global)化とはよく耳にする言葉ではありますが、これはどのような意味なのでしょう。私たちは議論をし、この“グローバル化”という言葉の意味について、グループ内で考えることにしました。

そもそも“グローバル(global)化”の“グローバル(global)”とは、英語の“Globe”を形容詞化したものです。そこで、“Globe”が持つ意味を、辞書で調べてみました。すると、そこには“Globe”とは“地球”のことであると記載されていました。これらのことを踏まえ、私たちは“グローバル化”を、“世界全体を地球という一つのもの”として捉えることではないだろうかと考えました。この考え方では、“グローバル化”の行き着く先とは、国の消失を指すのではないかと考えられます。というのも、“世界全体を地球という一つのもの”として捉えると、そもそも国という概念が存在しないからです。それは、国境の消失や文化・民族・宗教・歴史などの一様化も引き起こしてしまうのではないのでしょうか。もしこのような社会になると、人種や民族、宗教などが異なっても違和感を抱くことはなくなります。このように考えると、“グローバル化”とは非常に良いことのように思えるかもしれません。

しかし、“グローバル化”とは決して良いことばかりではないと私たちは考えます。何故なら、国がなくなるということは、その国独自の文化や技術もなくなってしまうことになるからです。また、国境が無くなるということは、人口の一極集中を引き起こす可能性があります。多くの人々が過酷な生活環境ではなく快適な生活環境の場所を求めため、その結果として都市部に人口が集中してしまうのです。

もちろん、私たちが考える“グローバル化”が必ずしも正しいわけではないでしょう。しかし、私たちは各国政府がグローバル化という言葉に振り回されてしまっているように感じられてなりません。各国政府は、世界的な問題をよりいい方向に進めるためにグローバル化を目標として掲げているようですが、そのために必要なものはグローバル化という一言で言い表せるような単純なものではないのです。よって、グローバル化という視点のみから見るのではなく、それをより複雑なものとして捉えることが、世界的な問題を考えるうえで非常に重要なのです。

そもそも、世界というものは国と国との関係性の上だけで成り立っているではありません。個人、地域、国、国家間といったような様々な要素が絡み合って初めて存在するものなのです。ですから、世界的な問題を解決しようとする際には、そのそれぞれの立場に立って考えなければならないのです。

例えばエイズの問題は、国家間でいくら努力しようと、その問題は解決に向かうことはないでしょう。エイズは世界的な問題ではありますが、その解決のためには様々な主体からのアプローチを必要としています。個人の面からは、コンドームの着用を心掛けるなどの意識の改善。地域の面からは、コンドームの使用などを働きかける啓蒙活動。国の面からは、エイズのことを学校教育でより深く教える。あくまで一例にすぎませんが、このようなアプローチが大切です。

このように、世界的な問題の解決には様々な主体からアプローチが必要です。そしてまた、これら主体が独立して行動するのではなく、それぞれの主体と密接な関係を築きながら活動していくことが、この問題の解決には欠かせないのです。

私たちが行いたいこととは、途上国の開発問題を解決に導くための手助けをすることです。今回、その解決のために2つの方法を考えてみました。

まず1つ目の方法は、今まで政府主導・政府主体で行われてきた途上国の開発を、政府と住民が同じ視点に立って、開発するというものです。このような開発の場合、政府は住民たちと一緒に作業をするため、その地域の実情をより詳しく知ることができるでしょう。それにより、資金の提供や技術の提供をより有効に行うことができます。

2つ目の方法は、住民が主体となって開発を行うというものです。この開発の場合、政府は住民だけでは解決できない問題が発生した場合のみ資金や技術面での協力をしますが、実際に作業に当たることはありません。全ての作業を住民たちが行うため、住民たちにはより自発的な姿勢や意識が生まれると考えられます。

もちろんこれは理想的なモデルなので、実際には実現が難しいでしょう。また、それだけではなく、この2つのモデルより有用なアプローチの仕方があるのかもしれませんが。金

錢的な援助や人的援助を行わない方がいい場合もあるのです。

このように様々な解決方法がありますが、最も大切なことは、政府、NGO、住民などといった様々な参加者が、“お互いに理解し、尊重し、協力し合う”ということだと考えます。